

私たちは、NPO法人宮城歴史資料保全ネットワークです。

東日本大震災での歴史資料レスキュー ふるさとの「歴史遺産」を未来へ



津波被災古文書のクリーニング (11年10月/仙台市)



津波被災古文書の真水での洗浄 (11年10月/仙台市)

石巻市本間家での被災資料レスキュー (11年4月)



巨大地震と津波で、無数の歴史資料が永久に失われました。中には私たちの活動でデータだけが残されたものもあります。災害「前」の保全の必要性を、最も悲しい形で知る事になりました。奇跡的に消滅を免れた歴史資料は、速やかに被災地から搬出し、全国のボランティアと協力して応急処置を続けています。二〇一一年九月時点の救出件数は三六。ふるさとの「歴史遺産」を未来へ伝える活動は今後も続きます。

私たちは、NPO法人宮城歴史資料保全ネットワークです。

歴史資料の保全活動

災害から「ふるさとの歴史」を守る



岩手・宮城連続地震での被災資料レスキュー
(09年6月/東原市)



宮城県北部地震での被災資料レスキュー
(03年8月/現石巻市)



未整理のまま残されている古文書 (09年8月/現一関市)



宮城県気仙沼市での保全活動 (07年8月)

日本の地域社会には、古文書や古美術品、昔の生活の道具などの歴史資料が、今でも手つかずのまま、旧家の土蔵などに無数に眠っています。「ふるさとの歴史」はこれらを調べることで初めて明らかに出来るのです。

地震などの災害は、これらの歴史資料が大量に失われる契機となります。二〇〇三年七月の宮城県北部での直下型地震をきっかけに、発生が確実視されていた「宮城県沖地震」に備え、災害「前」に歴史資料を保全する活動を、行政や市民と協同して進めてきました。

ちょっと待って！

それはゴミじゃなくて、大事な歴史資料では？
たとえ読めなくても、汚れたり破れていても、まだ救えるかもしれません。その資料が、社会を支えるかもしれません。歴史資料かな？と思ったら、NPO法人宮城歴史資料保全ネットワークにご連絡下さい。

電話 022-795-7546 (事務局)